

春日神社に伝わる能装束は63点のうち39点が国の重要文化財、24点が附として指定を受けています。室町～安土桃山時代のものが多く、江戸時代以降に定型化した能装束とは異なった趣をみせています。

中には、中国の織物職人と思われる人物名が織り出されたものや、金欄や黄緞の狩衣や法被などがあり、中国から輸入されたものが含まれていることがわかります。また、日本独自の技法である糊防染で染め上げた直垂などがあり、近世以降における友禅染や小紋染の源流をたどる上でも貴重な資料群です。



▲草花鳳凰文様繡箔



▲桐楓鴛鴦文様繡箔

関の文化財探訪

その24

関の「文化財」を紹介します。

照会先 文化財保護センター ☎ 46-2313

豆知識

金欄—緯糸に金糸を織り込んだもの。
黄緞—経糸に絹、緯糸に木綿を使って織ったもの。
糊防染—染めない部分に、もち米などの糊を用いて防染すること。

公開日

刃物まつり開催時の日曜日（春日神社の社務所にて）
※今年（平成24年）は、10月14日（日）

アクセス

長良川鉄道・刃物会館前駅から徒歩約5分
東海北陸自動車道関ICから車で約10分



▲菊桐山吹文様繡箔



▲桐桜沢瀉文様摺箔